

# 特定外来生物 ヌートリア



ヌートリアは南米原産の、大型のネズミの仲間です。毛皮の採取に利用するため人間により日本に持ち込まれました。西日本を中心に分布が広がっており、水辺に近いところにある植物などを旺盛に食べるため、生態系や農業への被害が各地で生じています。そのため「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)」に基づき、**特定外来生物**に指定されています。

## ヌートリアとはこんな動物

口のまわりだけが白っぽい毛で覆われています。

全身が茶色です。

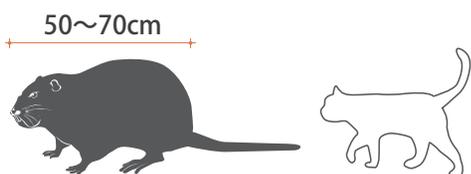


前歯は(門歯)は大きく、オレンジ色をしています。

尻尾は細長く、毛がほとんど生えていません。

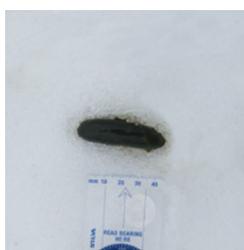


写真: 河合典彦氏 提供



頭から尻尾の付け根までは**50~70cm**程度、尾の長さは**35~50cm**程度で、成長して大きくなった個体は**ネコより大きく**見えます。

糞は濃緑~黒色で、3~5cm程度。形はソーセージに似ていて水際で多数見つかることもあります。



ヌートリアの糞

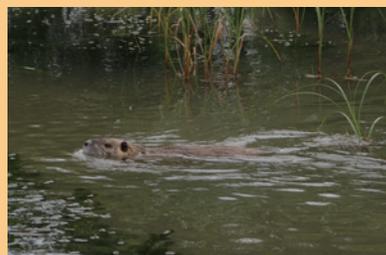
後ろ足の足跡には**水掻き**が目立ちます。



ヌートリアの足跡

年に2~3回繁殖し、一回当たり5匹程度の子を産みます。まさに**ネズミ算式**に増えていきます。

**泳ぎが非常に得意**で、潜水も難なくこなします。水辺を好み、河川や水路、ため池の近くでよく見かけます。



## ヌートリアによる被害

基本的には草食で、水辺近くにある植物を食べます。淡水産の貝類や希少な植物を食害し、生態系への影響が懸念されています。川や水路沿いの田畑にもよく出没し、農作物を食害するため問題となっています。

ヌートリアによる二枚貝の食害



被害状況写真：河合典彦氏 提供



ヌートリアに脅かされる

- 1 イシガイ
- 2 ドブガイ類

水辺近くにある土手や田の畔に、長く複雑な巣穴を掘って暮らします。このことが原因で、堤防や畔が壊れる場合があります。

イタセンパラが卵を産み付ける二枚貝はヌートリアに捕食されて数が減少しており、イタセンパラの減少の原因のひとつとなっています。

卵を産み付ける貝がないよ〜



イタセンパラ

写真：河合典彦氏 提供

## ヌートリアの分布図



## 増やさないために

ヌートリアにエサを与えないでください。ヌートリアが増えることで日本古来の在来種の減少や衛生環境の悪化、農作物の被害の増加につながってしまいます。ヌートリアの飼育は法律で禁止されています。



## 外来生物被害予防3原則

- 1 入れない  
悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに日本に入れない
- 2 捨てない  
飼っている外来生物を野外に捨てない
- 3 拡げない  
野外にすでにいる外来生物は他地域に拡げない

## 特定外来生物とは

もともと日本にいなかった生物(外来生物)のうち、生態系などに被害を及ぼすものを特定外来生物として指定し、飼育・栽培・保管・運搬、輸入、販売・譲渡、放出など原則として禁止しています。違反した場合は罰金や懲役が科されます。

ヌートリアは特定外来生物に指定されています。

## 【特定外来生物に関するお問い合わせ】

環境省 近畿地方環境事務所 野生生物課

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 OMM8F TEL:06-4792-0706 FAX:06-4790-2800

【協力】 大阪府立環境農林水産総合研究所生物多様性センター  
上原 一彦  
淀川水系イタセンパラ研究会  
河合 典彦(大阪市立新豊崎中学校教諭)

【制作】

有限会社 a環境研究所  
E-環境研究所